

国交省直轄・総合評価

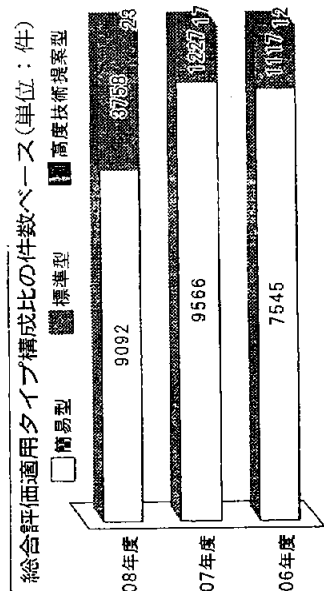
標準型に標準型適用

技術力の競争性強まる

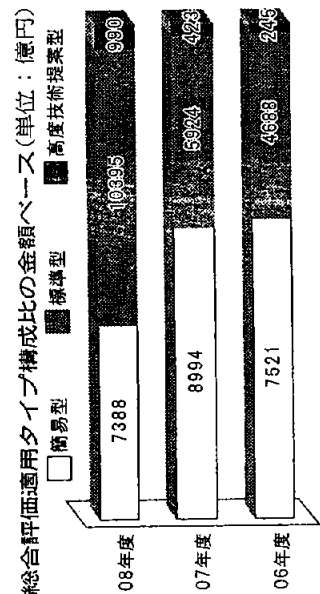
国土交通省直轄工事の総合評価落札方式で、標準型の採用が増加している。国交省がまとめた2008年度のタイプ別実施状況によると、金発注額の55.3%を標準型が占め、前年度より16.8%増加、件数では約3.1倍になった。昨年度まで金額ベースで最も適用割合が多かった簡易型を抜き、最も多くなった。技術提案の評価項目を少なくする標準型（Ⅱ型）を08年度から導入したことによるもので、国交省は企業の技術力をより重視できる標準型の採用を今後も増やす考えだ。

07年度まで国交省直轄工事
で採用していた総合評価落札
方式は、高度技術提案型、標
準型、簡易型の3種類で、08
年度から標準型にⅡ型を追加

して4種類となった。



08年度の金発注工事につい
て、総合評価落札方式の適用
率は、件数ベースで98.9%
に当たる1万2873件、金



額ベースで99.7%に当たる
1兆8773億円だった。

タイプ別では、全件数のつ
ち簡易型を採用した割合が前
年度から13.0%減り70.5
%に当たる9092件、総額
の構成比は前年度から19.1
%減り7388億円となっ
た。

一方で、標準型は、件数に
占める割合が17.8%増の3
758件、金額に占める割合
が16.8%増の1兆0395
億円となった。

標準型（Ⅱ型）は、簡易型
と標準型が06年度まで工事規
模で選定される傾向にあった
ことから07年度に設けた。技
術提案の評価項目が1項目の
場合に適用する。

標準型は複数の提案項目が
ある場合に適用し、簡易型は

施工計画だけで評価できる場
合に採用するタイプで、標準
型（Ⅱ型）は2タイプの中間
に位置する。

今回のタイプ別の実施状況
で、標準型が増加したのは、
従来、簡易型を採用していた
工事で標準型（Ⅱ型）を採用
したものとみられ、より技術
力の競争を促進する結果とな
っている。